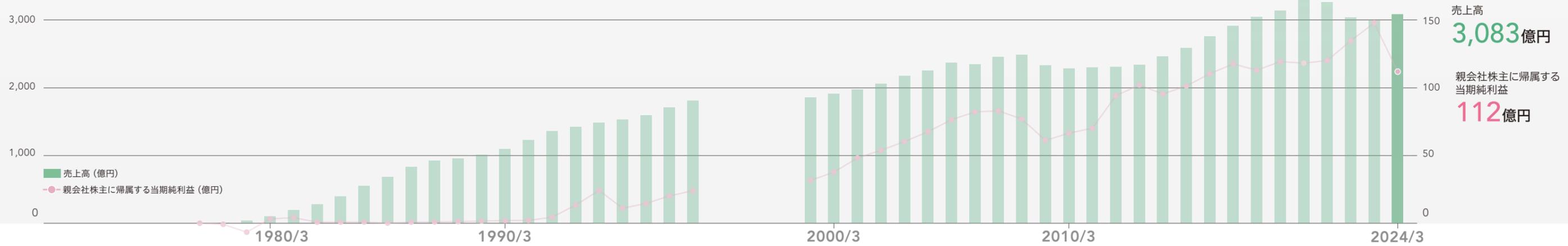


History

あゆみとビジネスモデルの変遷

リコーリースグループは、リコー製品の販売支援を目的に設立され、大きく変化する社会課題に対応しながらお客様や取引先とともに、事業領域を拡大してきました。今後も私達らしさを基軸に、社会課題の解決に貢献していきます。



1970年代

1980年代

1990年代

2000年代

2010年代

2020年代

社会課題の変化

- 1970年代: 経済成長
- 1980年代: 経済の急拡大による人材不足、自動車の普及
- 1990年代: 地球温暖化問題
- 2000年代: 少子高齢化社会、労働人口減少
- 2010年代: 医療従事者の不足、都市化問題
- 2020年代: 脱炭素社会への期待の高まり、デジタル化

リコーリースグループの変化

リース・クレジットを軸にリコー製品の販売支援をスタート

1976 リコークレジットとして設立

1981 リコーグループ社員向けのローン、販売会社向けの集金代行・ファクタリングなど、金融サービスを拡充

1984 リコーリースへ社名変更

1996 リコー製品を軸に契約実行高を拡大し、上場に向け体制強化

1996 東証二部に株式を上場

2001 リコーグループへの商品展開をベースに、グループ外への営業活動強化によりさらなる成長加速

2001 東証一部に指定

2004 社会貢献型株主優待制度開始

2005 テクノレントを子会社化

2020 ファイナンスにおける知見をベースに、関連分野での事業投資を拡大

2020 リコー、みずほリースと3社間の業務提携契約を締結、エンプラスを子会社化

2022 『循環創造企業へ』を中長期ビジョンに掲げ、環境・社会・経済の持続的な発展に貢献

2022 東証プライム市場に移行、Welfareすずらんを子会社化

ビジネスモデルの変化

設立当初

リコーグループの販売支援を目的としたファイナンスを提供

2000年～2020年ごろ

リコーグループへのファイナンスをグループ外に提供し、社会課題解決に向けた事業に変異

現在

トランザクションデータを活かし多様な事業へ変異

